

H24-D1-2 深度31.44~31.46m 明瞭なせん断構造・変形構造の有無 (No.93) の変更

- 従前提示していたデータでは性状一覧表に明瞭なせん断構造・変形構造の有無を「無」と記載していたが、以下のことから、明瞭なせん断構造・変形構造の有無を「無」から「有」に変更した。
- 当初のコア観察において、粘土状部の色調を灰白色～にぶい黄橙色～灰赤色と記載している。コアの再観察の結果においても、最新活動面に沿った断層ガウジには灰白色、にぶい黄橙色、灰赤色の層状構造が認められることから、明瞭なせん断構造・変形構造は「有」である。
- 従前提示していたデータで明瞭なせん断構造・変形構造を「無」としていたのは、誤認であると推定される。

明瞭なせん断構造・変形構造の有無 (H24-D1-2 深度31.44~31.46m)

• 最新活動面に沿った断層ガウジには灰白色、にぶい黄橙色、灰赤色の層状構造が認められることから、明瞭なせん断構造・変形構造は「有」とした。

コア写真

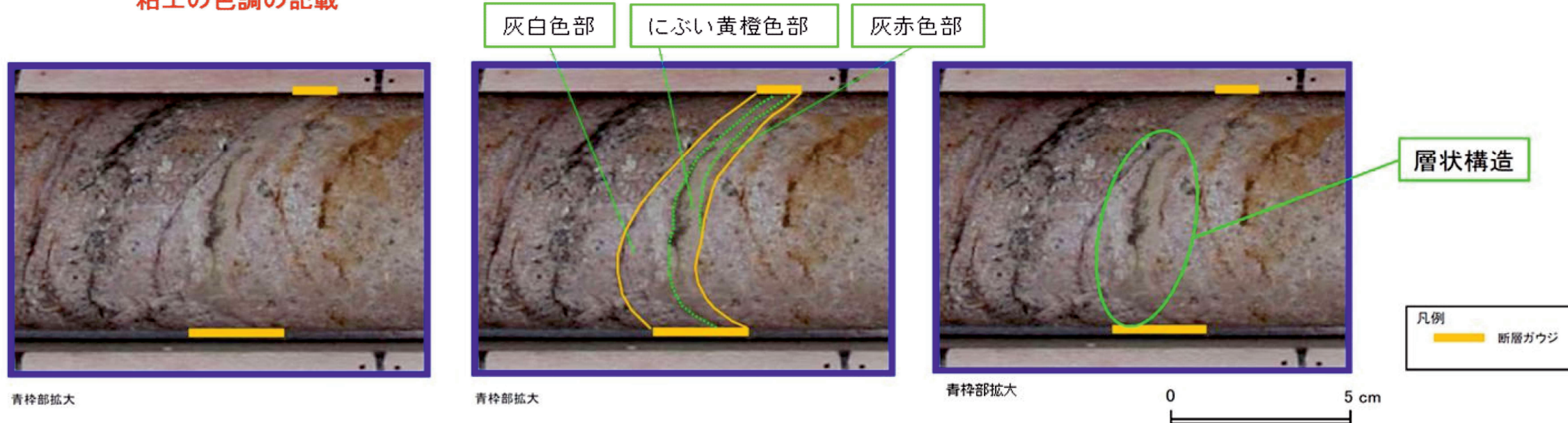


該当箇所のコア観察カード

31.44~31.46m : 破砕帯 HC-1 (主観断面・31.46m)
 上端・下端35°で、両者とも近似的でネーゴに連続。
 9/10に石英と含有量的な粘土で、灰白色～にぶい黄橙
 (10YR 7/2)～灰赤色 (2.5YR 6/2) 程度。厚さ10~12mm

粘土の色調の記載

凡例
 断層ガウジ ← → 破砕部範囲※ 最新活動面
 ※: 写真上は白色で記載



H24-D1-4 深度10.91~10.93m 最新活動面の深度 (No.94) の修正

従前

見直し後

第833回審査会合
机上配布資料2
敦賀発電所2号炉 敷地の地形、地質・地質構造について
参考資料2 性状一覧表
参考2-34頁

第833回審査会合 机上配布資料2に追記(青太枠)

2.D-1 破砕帯
性状一覧表(6/12)

破砕帯名	掘削 箇所	破砕帯範囲		走向	傾斜	破砕帯 幅(m)	断面 形状	最新活動面 の深さ(m)	傾斜 角(°)	方位	位置 関係	写真
		上層深さ(m)	下層深さ(m)									
ふげん遺跡 ピット				N60E	60W	40.0	1.5	有 *1	平滑 *1	60L	正	
H27-08-1 (掘削45°)		58.82	58.85	N20E	80W	2.5	0.7	有	平滑	60H	正	
H27-08-2 (掘削45°)		61.29	61.69	N80E	80W	28.8	1.5	有	平滑	60	正	
H24-01-4 (掘削45°)		109.16	109.46	N10W	70W	7.8	2.2	有	平滑	109	正	
H24-01-3 (掘削45°)		34.23	34.32	N120W	80W	18.6	0.8	有	平滑	75L	正	
H24-01-2 (掘削60°)		12.28	12.97	N140E	70W	41.7	0.9	有	平滑	60R	正	
H24-01-4 (掘削45°)		10.91	10.93	N130W	70W	1.8	1.8	有	平滑	60L	正	

No.94
(赤矢印位置)

No.94
(赤矢印位置)

凡例
 最新活動面 ← → 破砕帯
 断面ガウジ
 粘土の存在物が認められる箇所
 *1 傾斜
 *2 平滑
 *3 非平滑

【破砕帯】
 粘土状破砕帯
 面結した破砕帯
 の合計の厚さ
 参考2-34

掘削 箇所	破砕帯 番号	破砕帯範囲		走向	傾斜	破砕帯 幅(m)	断面 形状	最新活動面 の深さ(m)	傾斜 角(°)	方位	位置 関係	写真	
		上層深さ(m)	下層深さ(m)										
H24-01-4 (掘削45°)	①	19.91	19.93	N130W	70W	1.8	有	有	1.8	有	60L	正	
H24-01-4 (掘削45°)	②	27.75	28.43	N60E	80W	40.8	有	有	0.4	有	90	正	
H24-01-4 (掘削45°)	③	52.97	52.46	N41E	90W	34.6	無	無	-	70R	正		
H24-01-4 (掘削45°)	④	60.06	60.38	N10E	80W	22.6	有	有	0.3	有	60	正	
H24-01-4 (掘削45°)	⑤	61.47	61.52	N27W	80W	5.0	有	有	0.1	有	60L	正	
H24-01-4 (掘削45°)	⑥	63.87	63.90	N20E	80W	7.8	無	無	-	60L	正		

No.94
(赤矢印位置)

No.94
(赤矢印位置)

凡例
 最新活動面 ← → 破砕帯
 カラーバーが付いていない区間はカタレーサイトを
 断面ガウジ
 断面角礫

※1 断層帯区分の総合評価に基づき記載し、肉眼「有」のうち総合評価「無」となる箇所は「-」を記載
 ※2 斜めボーリングの場合は、計測値を補正した値を記載
 ※3 卓越しない成分については「-」を記載(両成分「-」は薄片観察を行っていない箇所)
 (上記以外): データを取得していない箇所

H24-D1-4 深度10.91~10.93m 最新活動面の深度 (No.94) の修正

従前

見直し後

第833回審査会合
机上配布資料1
敦賀発電所2号炉 敷地の地形、地質・地質構造について
参考資料1 薄片観察結果
参考1-33頁

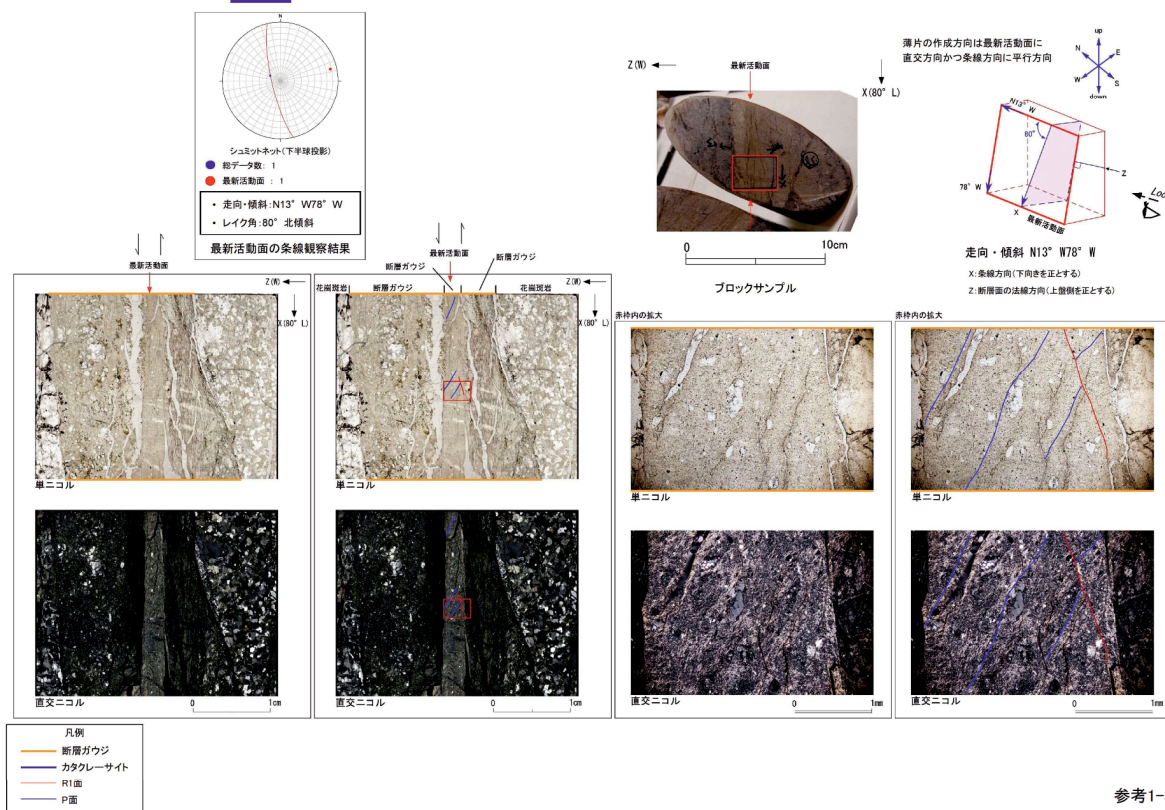
第833回審査会合 机上配布資料1に追記(青太枠)

No.94
10.91 m

No.94
(フォーム見直しにより数値の記載なし)

D-1破碎帯 薄片試料観察(H24-D1-4 深度10.91m)

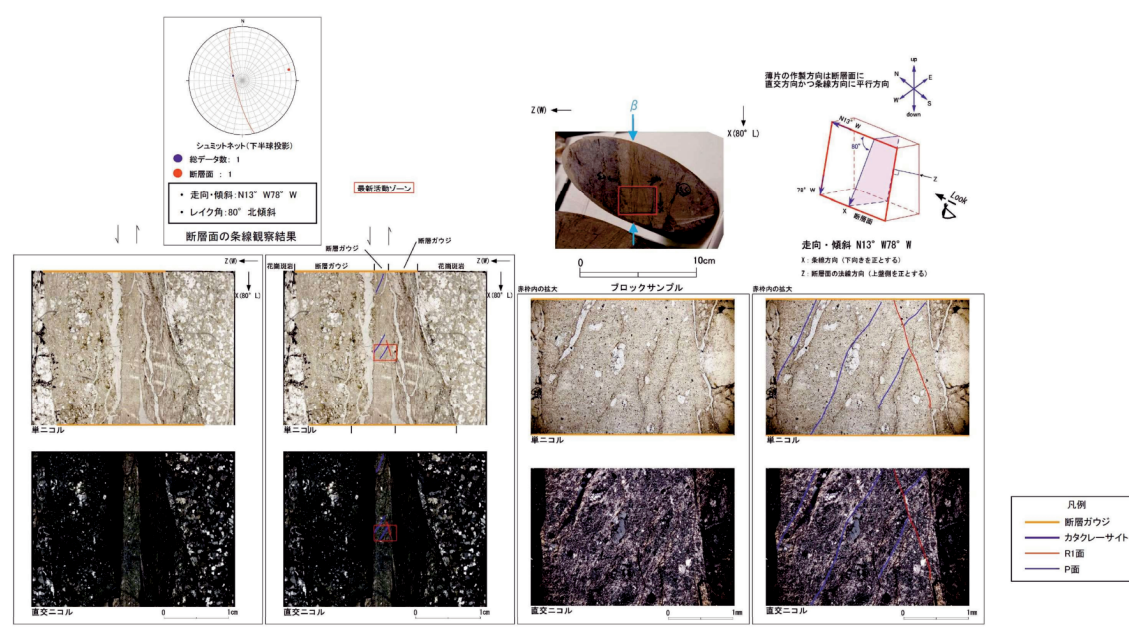
H24-D1-4のボーリングコア(深度10.91m)から採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動面の変位センスは、正断層成分が卓越する。



・H24-D1-4のボーリングコアから採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動ゾーンの変位センスは、正断層成分が卓越する。
・最新活動ゾーンに以下の特徴が認められることから、断層ガウジと判断した。
➢ (断層ガウジ)せん断構造に伴う粘土鉱物の定向配列が認められる。
➢ (断層ガウジ)基質は粘土鉱物を主体とする。
➢ (断層ガウジ)粘土状部の分布は帯状で直線的である。
➢ 岩片は少ない。
➢ (断層ガウジ)丸みを帯びている岩片が多い。

※断層面βは最新活動面

9-7-1081



第7.4.4.310図(3) 破碎部性状 H24-D1-4 深度10.91~10.93m (変位センス, 薄片観察による断層岩区分(1/2))

H24-D1-4 深度52.97~53.46m 最新活動面を示す矢印の位置 (No.95) の修正

従前

見直し後

第833回審査会合

机上配布資料 1

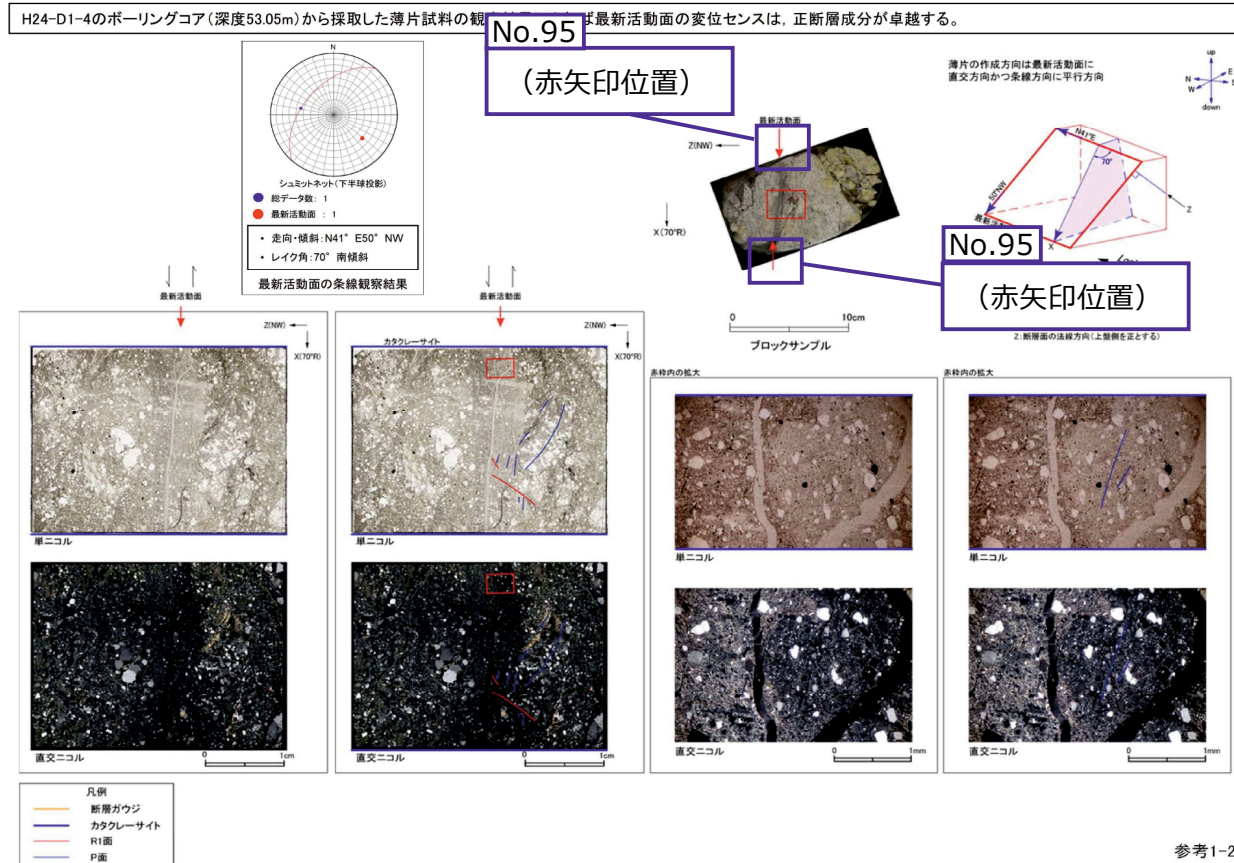
敦賀発電所 2号炉 敷地の地形、地質・地質構造について

参考資料 1 薄片観察結果

参考1-225頁

第833回審査会合 机上配布資料1に追記(青太枠)

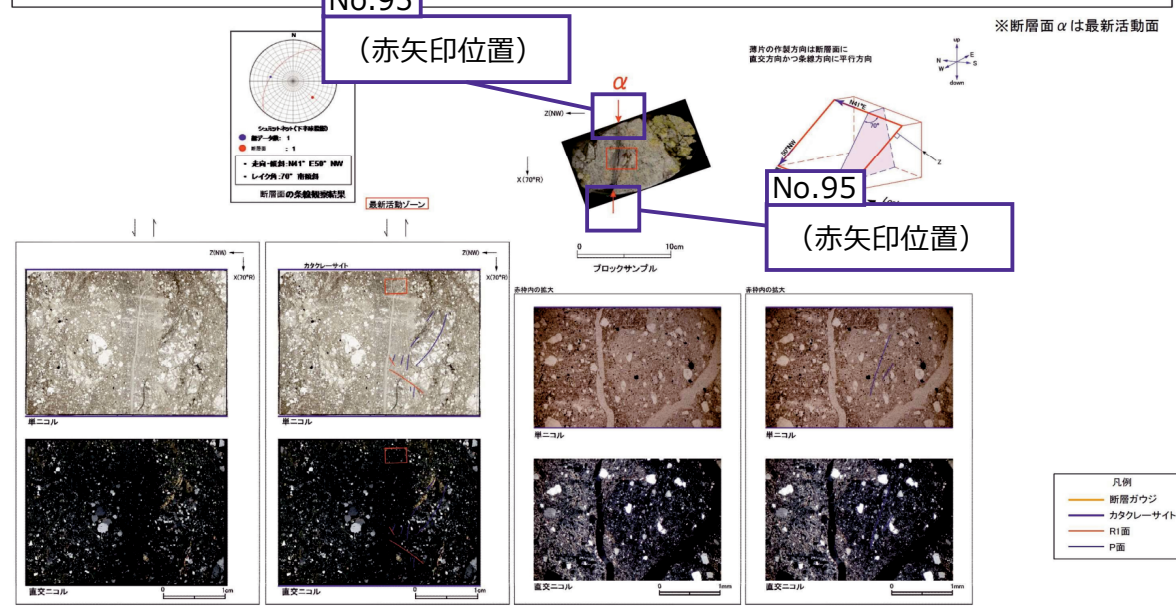
非モデル化破碎部 薄片試料観察 (H24-D1-4 深度53.05m)



H24-D1-4のボーリングコアから採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動ゾーンの変位センスは、正断層成分が卓越する。最新活動ゾーンに以下の特徴が認められることから、カタクレーサイトのみからなる破碎部であると判断した。

- > (カタクレーサイト) 基質を構成する粘土鉱物は少ない。
- > (カタクレーサイト) 断層面に沿った粘土状部は連続しない。
- > (カタクレーサイト) 岩片量は漸移的に変化する。
- > (カタクレーサイト) 多様な粒径の岩片が多く認められる。
- > (カタクレーサイト) 角ばった岩片が多い。
- > (カタクレーサイト) 岩片の粒界を横断する破断面が認められる。
- > (カタクレーサイト) シグソー状の角礫群が認められる。
- > (カタクレーサイト) 塑性変形した雲母粘りされる。

6-7-1092



第7.4.4.312図 (3) 破碎部性状 H24-D1-4 深度52.97~53.46m (変位センス, 薄片観察による断層岩区分(1/3))